

岩手県国際リニアコライダー推進協議会スイス視察団報告

「CERN(欧州合同原子核研究所)を視察・調査して」

岩手県商工会議所連合会専務理事 廣田 淳

概要

4月10日～15日までの5泊6日の日程で、スイス・ジュネーブのCERN(欧州合同原子核研究所)を視察・調査してきました。

この視察・調査は、岩手県国際リニアコライダー推進協議会(2012年4月設立、会長・元岩手県商工会議所連合会会長)が主催し、県内の行政(副知事、盛岡市長等の首長)、経済界のトップ(商工会議所、経済同友会、中小企業団体中央会)、報道機関による視察団35名で構成されています。

目的

現在、ILC(国際リニアコライダー)国内候補地一本化に向けて、ILCをわが岩手の北上山地に誘致するプロジェクトが正念場を迎えています。そこで、実際に、世界最大の大形円形加速器があり、国際的な研究拠点であるスイス・ジュネーブのCERNを視察・調査し、誘致の弾みにしようと企画したものです。

CERNとは

CERNの正式名称、設立等の概要はつぎのとおりです。

CERN: Conseil Européen pour la Recherche

Nucléaire (欧州合同原子核研究所)

設立: 1954年

目的: 素粒子の基本原則や現象を加速器を用いて研究

構成: 加盟20カ国、オブザーバー国・機関8 (日本含む)

施設: 世界最大の大形ハドロン衝突型加速器(LHC)を保有

職員: 約2400名

利用者: 年間約1万名の研究者が利用

予算: 年間1000億円、加盟20カ国が拠出  
メインキャンパス: 敷地面積80ha(東京ドーム17個分)

主な視察先等  
現地では、つぎのILCに係る主だった方々と  
ディスカッションを行ったほか、各施設を視察  
しました。

《ディスカッション》

リン・エバンス氏 (ILC推進組織責任者)

スタイナー・スタブネス氏 (ILCの次世代

加速器計画のディレクター)

《視察地》

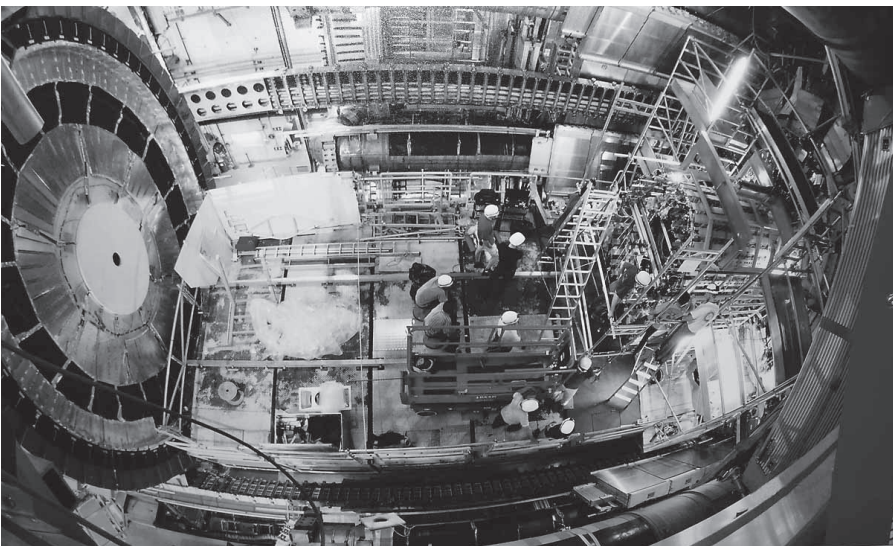
CERN駐在の日本人研究者

ドリス・クロメック・ビュルト女史(ユー  
ザーズ・オフィスリーダー)  
フランソワ・メイラン氏(フェルネーボル  
テール市長)

CERN施設内アトラス測定器

施設内幼稚園・消防署

フェルネーボルテール市(フランス・CERN)



CERN施設内アトラス測定器と現地スタッフ

N近郊で研究者が多く居住する町) 庁舎  
同市朝市

視察・ディスカッションから学ぶこと

〜受け入れ態勢準備に必要なもの〜

視察、ディスカッションを通し、次のようなハード・ソフト両面からの受け入れ態勢整備の必要性を感じました。

○世界各国から訪れる研究者は、家族同伴が大半であり、住居、病院、学校、幼稚園等の生活基盤の整備と、窓口での外国語サービス体制の整備が不可欠。

○ジュネーブ市内は家賃が高く、フランス側のコミュニオン(村など)に居住。ほとんどがアパート暮らしであり、リーズナブルな住居の確保が必要。

○行政の事務手続が面倒。滞在許可証の迅速な発行をはじめ、ワンストップサービス化など、自治体の受入体制が重要。

○配偶者の就職支援も重要な課題。

○地元自治体とのオープンな連携が必要(フェルネーボルテール市は、CERNを「高い城壁」と表現している)。

○研究者や家族に地域での生活にとけ込んでもらうため、朝市など買物を通じた地域との交流機会の提供や、観光・レジャー等のソフト面の充実など、研究者、家族にとってエンjoyできる環境づくりが必要。

視察・調査を終えて

○CERNの研究者から日本誘致への強い期待を感じた

待を感じた

リン・エバンス氏からは、「質の高い研究ができることが重要であり、それを受け入れられる環境が整っていること。」との象徴的なコメントがありました。また「日本と一緒に仕事をしたい。」という期待も述べられました。

スタプネス氏やビュルト女史からも研究活動や生活全般にわたり懇切・丁寧な説明があり、大変役に立ちました。

そのほか奥州市出身の佐々木教授をはじめとした日本人研究者全員からは、日本誘致への強い思いを感じとりました。

○今後の受入れ態勢について多くの示唆を得た  
住居、学校、幼稚園、外国語による円滑なサービス等の生活環境整備、地元自治体との連携・交流等、ソフト面を中心に様々な課題が明確になりました。

CERNでは、1954年のスタート以来、ハード・ソフト両面の整備について、当初からきちんとした計画があったわけではなく、試行錯誤をしながら、現在の姿になったものと推察されます。

岩手では、CERNのこうした経験を十分に生かしつつ、まちづくりや受入態勢等、

ハード・ソフト両面について、しっかりとしたグランドデザインを策定し、より質の高い環境整備をすることが肝要であるとの多くの示唆を得た視察・調査でした。



フェルネーボルテール市庁舎前にて(前列中央がフランソワ・メイラン市長)